

「モーストリー・クラシック Vol.334」 2025年3月号

佐藤泰弘先生(本学特任教授)と泉関洋子さん(本学卒業生)および東邦第二高等学校生徒も出演したオペラ彩 第41回定期公演 オペレッタ「こうもり」の記事が掲載されました。



12月7日 和光市民文化センター大ホール サンアゼリア **オペラ彩定期 J・シュトラウスⅡ：オペレッタ《こうもり》** オペラ

埼玉県和光市を本拠に公演を続けている「オペラ彩」が、第41回定期に《こうもり》を上演した。歌は原語、セリフは日本語で演出の直井研二が作成、それら全てに字幕が付いた。セリフと音楽の間合いなどオペレッタ特有の感覚を指揮の上野正博が適切に押さえて、管弦楽(アンサンブル彩)も好演。しつかりと準備された感のある公演となった。

歌手は一部にデコボコがあったとはいえ、おおむね水準が維持されていたのは首都圏の地の利か。あるいは長く活動しているゆえのネットワークの賜物か。ダブルキャストのうち、アイゼンシュタイン(石塚幹信)、ロザリンド(牧野元美)、アルフレート(大澤一彰)、アデーレ(奥村さゆり)、フランク(佐藤泰弘)らが安定した舞台を展開。

天井まで届く美しい舞台装置を背景に、直井演出はキャストを度々踊らせて動きのある舞台で活気を出した。オルロフスキー(泉関洋子)の「笑えない」理由にウクライナ問題をおわせるなど、時事問題を多少入れたのも印象に残る。

関根礼子◎音楽評論家

